

岡山・鳥取両県知事会議

日 時：平成 29 年 11 月 6 日（月） 15：30～

場 所：奈義町現代美術館

【村木局長】本日はお忙しいところ、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。ただいまから、「岡山・鳥取両県知事会議」を開会いたします。

私は、岡山県総合政策局長の村木でございます。まず、始めに、開催県である岡山県の伊原木知事から、ご挨拶申し上げます。

【伊原木知事】本日は、岡山・鳥取両県知事会議を開催いたしましたところ、平井知事におかれましては、お忙しい中、岡山までお越しいただき、感謝申し上げます。

本日の会場である奈義町は、中国山地の秀峰、那岐山（なぎさん）の麓にある町で、山をはさんで鳥取県智頭町と隣接する、自衛隊日本原駐屯地があることでも知られる町です。

少子化問題が叫ばれる中、ここ奈義町は、2014年の合計特殊出生率が、全国トップクラスの2.81を達成、子育て支援の取組が全国から注目されております。また、芸術・文化にも力を入れており、ここ、奈義町現代美術館は、作品と建物が一体化した全国的にも珍しい美術館で、1994年の開館以来多くのアートファンを集めているところであります。

鳥取県中部地震の発生から1年あまりが経過いたしました。鳥取県の皆様のご努力により災害復旧・復興が着実に進められていること、心よりうれしく存じます。昨年の会議は地震の爪痕がまだ残る中での開催であり、自然の脅威を目の当たりにして、防災対策の重要性について思いを強くしたところでもあります。視察させていただいた文化施設「倉吉未来中心」も全館で運用を再開されたと聞いており、平井知事におかれましては、鳥取県の皆様の先頭に立ち、困難に立ち向かわれておられますことに、深く敬意を表す次第でございます。

岡山県といたしましても、微力ながら復興に向け、鳥取県のお役に立ちたいと考えておりますが、こうしたことも踏まえ、災害の対応、それから観光はどのように協力していくかなど、いろいろなことについて意見交換させていただき、有意義な会議にできればと考えております。どうぞよろしく申し上げます。

【村木局長】続きまして、鳥取県の平井知事からごあいさつを頂戴したいと思います。よろしく申し上げます。

【平井知事】本日は、伊原木知事様、さらには村木局長様はじめ、地元の皆さまにこのよ

うにお迎えをいただき、笠木町長にもご案内をいただきました。今、岸本館長にぐるっと案内していただいたわけではありますが、本当に心が震えるような強い感覚を感じる次第でございます。やはり、人間の感性というものを研ぎ澄ますのに、ここ岡山県、そして奈義町は、インスピレーションを内在しているのではないかと思います。ここから那岐の山を仰ぎますと、これは私たちがいつも見ている山とは別の山に見えました。どちらかというところ、谷が深いところが多いのですが、仰ぎ見るようなかたちで見ていた山が、こちらにまいますと、先ほど借景というお話がございましたが、手に届くような、そんな身近さ、優しさで私たちを迎えてくださるような気がいたすわけでございます。同じ地域に住み、そして隣接して、これから観光あるいは交通、さらには産業振興などを一緒にやっという中でございますが、同じものを共有しながら、別々のよい力をそれぞれに備え、互いに協力することで大きな成果が生まれるのではないかと思います。

まずもって、先の台風によりまして、この美術館あるいは奈義町の役場が被災され、風の大きな被害がございましたこと、心からお見舞いを申し上げたいと思います。奈義のシンボルでもありますイチョウが倒れることは、大変に悲しいことでありましたけれども、同じ地域に住む者として、一緒になってサポートしてまいりたいと存じます。

また、昨年は10月21日の震災、また豪雪の被害に当たりまして、伊原木知事の大変なご決断がありました。驚きましたのは、選挙中でありながら運動を中止して、鳥取県の支援も含め、地元の被災地を気遣われていたことでございます。また、雪の際に、即断即決で除雪車を回す決断をしてくださいました。伊原木知事のリーダーシップに、感謝を申し上げたいと思います。

つい先日まで、一緒に韓国へ行ってまいりまして、日韓知事会議に臨んだわけがあります。伊原木知事は、堂々と日本の素晴らしい心、そして観光などの魅力を、韓国の皆さまに岡山の良さを訴えておられました。そのスピーチも非常に洗練されたものでございまして、圧倒されたわけでございます。ぜひ今日も、実りの多い議論を通じまして、皆さまとパートナーシップをさらに一層強化することができればと思います。

今、時あたかもトランプ・安倍会談という時期になっているわけがあります。そういう中で、私たちはここで、また地域の課題、国に対して要望することも含めて共有することとなるわけがあります。時代が今、動こうとしている中、岡山・鳥取からその新しい風を吹かせていければと思います。

そういう中でございますけれども、ぜひ今日この現代美術館の会場におきまして、良き成果が生まれることを期待してやみません。「みな大き袋を負へり雁渡る」という西東三鬼の句がございましてけれども、この県北出身でございます。私たちは、大きな荷を負いながら空を渡るがごとく生きているのかもしれない。ただ、雁もたった一羽で渡るわけではなく、仲間とともに渡るわけがあります。これから岡山・鳥取両県が、ぜひとも手をつないでよき未来を、この奈義から起こしていけることを祈ってやみません。どうか本日、素晴らしい実を賜りますよう、お願いを申し上げたいと思います。

本日は、本当にありがとうございました。

【村木局長】ありがとうございました。

それでは、本日の予定でございますが、16時30分ごろまで会議を進めることとしております。

意見交換に入ります前に、両知事のお手元でございます、ブドウとお菓子を紹介させていただきます。ブドウのほうでございますが、「紫苑（しえん）」という名前の、年末まで出荷できるおくて（晩生）の品種でございます。甘みが強くて、とてもジューシーな岡山県注目のブドウということでございます。岡山県の農業研究所が開発した加温技術を用いた「紫苑」でございます。全国でも岡山県だけで栽培されており、晩秋から初冬期のブドウとしてブランド化を目指しております。

また、お菓子のほうでございます。「Nagi Siro」という名前でございますが、ここ奈義町内の牧場の牛乳を使用した白プリンでございます。地域おこし協力隊員が開発を企画しまして、奈義町の新たな特産品として人気を集めているものでございます。

それでは、これより意見交換に入らせていただきたいと存じます。これ以降の進行につきましては、伊原木知事にお願いしたいと思います。

【伊原木知事】では、以降の進行をさせていただきます。

最初に修正をさせていただきます。平井知事は、韓国で私が立派に発表したとおっしゃいましたけれども、意味とすれば、最後まで泣かずに発表ができたということでございまして、実際には、平井知事のいつも通りの素晴らしい発表があつて、その次が私でしたのでどうしようかと思っていたところ、休憩が入ったので大変助かりました。本当に素晴らしく、韓国の言葉や、いろいろな難しいことわざも交えながらのスピーチに、皆さんが圧倒されていたということでございます。

では、早速最初の項目、「観光誘客の連携の推進」について、平井知事からお願いいたします。

【平井知事】では、私のほうから先に、観光誘客の連携でございます。まさに先ほど、伊原木知事があちらでうまい宣伝をされていたんですけれども、インバウンド観光、例えば後樂園の写真をご覧いただきながら、そうした魅力を訴え掛けられていました。韓国でもおっしゃっていましたが、まさに今インバウンドが岡山県は非常にたくさん入ってくるようになってきています。伊原木政権になって、急速に変わったことの一つではないかと思えます。

私ども鳥取県も、岡山の半分以下、3分の1ぐらいかと思いますが、年間大体10万人宿泊規模まで外国人が来ているわけですが、最近は台湾の観光客などが多いです。これはやはり、岡山空港にLCCが入ったことが大きいのではないかなと思います。週5便入ってきています。さらには、香港のお客さまが極めて増えました。これは、旅館や観光関係者

もおっしゃるわけでございますけれども、香港航空が岡山・鳥取両県に入ってきて、週2便運行しています。ルートづくりをしていて、非常にいい効果が出ているのではないかと思います。

伊原木知事には、わざわざ香港でもキャンペーンをしていただきました。中国地方を代表して行っていただいたわけですが、私も実は9月に、ちょうど梨が採れる時期ですけど、香港にまいりまして、岡山・鳥取両県の観光キャンペーンをさせていただきました。実は、あるショッピングセンターでクイズをやったのですが、例えば後樂園の写真を見せて、「これは、岡山か、鳥取か」、当たれば賞品が出るわけです。なかなかこれは難しいだろうと我々は思うのですが、ちゃんと手も挙がり、「岡山」と答え、その方は賞品を持ってかえられました。私どもの鳥取砂丘の写真を出しますと、「これは鳥取のほうだ」と答える。それは、一般の買い物客です。今、だいぶん時代も変わりつつあるのではないのでしょうか。東京ディズニーランドとUSJの区別だけでなく、岡山・鳥取につきましても認知度が高まってきています。これは、これからのチャンスが見え始めたのではないかなと思います。

また、鉄道も「瑞風」が運行を始めまして、先般も来島社長とお話をしたのですが、とんでもない倍率で、これもずっと続くブームだろうと思います。こうした鉄道と、鳥取県内でも観光列車の「あめつち」が新年度に走り始めるという要素もございまして、いろいろルートづくりもできるのではないかなと思っています。

また、新年度、私どもでは「大山開山1300年祭」を予定しています。実は、大山・蒜山地域は同じ国立公園に入っており、共同で入込客を増やさなければならないということがあります。JTBさんは、「日本の旬」という重点キャンペーンをやろうとしていまして、田川会長さんとも先般お会いしてきましたが、大変張り切っておられます。これは、岡山・鳥取両県が入ったエリアで開催されるキャンペーンでございまして、ぜひこのタイミングを捉えて、新年度こうしたインバウンドの確保、それから国内の観光客に向けたルートづくり、さらには「大山開山1300年祭」とのタイミングを捉えた観光の推進をさせていただき、共同のプロモーションをさせていただけないだろうかというふうに考えます。高速道路なども、周遊のルートといたしますか、割引料金制度もできておりますし、香港のお客さまも、自分でレンタカーで走る方が非常に多いですから、両県が共同してやることはまだまだあるのではないかなと思います。

ここ奈義町は、岸本斉史さん、『NARUTOーナルトー』の作者の地でございます。『NARUTOーナルトー』の販売部数は、海外でも1億を超える大変なものでございますが、私どもは「(名探偵)コナン」だとか「鬼太郎」がございまして。そうしたアニメ・漫画つながりということで、回っていただくことも手ではないかなと思っています。

どうかよろしく願い申し上げます。

【伊原木知事】例も挙げていただきまして、ありがとうございます。

岡山県は、ご案内の通り、プレ、本番、アフターと、これまで3年間にわたってデスティネーションキャンペーンをやってまいりました。この効果を一過性のものにしなないということで、誘客を図っているところであります。来年度は、岡山県の強みであるフルーツを生かした観光キャンペーンも検討しているところでございます。鳥取県とは、アンテナショップをご一緒させていただいているということもありまして、本当にいろいろなことで連携をさせていただいているところです。先ほど、大山開山1300年ということもありましたけれども、大山・蒜山はもう本当に一帯と言ってもいいぐらいで、ぜひ一緒にPRしようということで、アンテナショップでもやってきました。

もう一つ、中部地震からの復興の意味も兼ねて、総合観光サイト「おかやま旅ネット」のトップページに、岡山・鳥取の周遊モデルコースを掲載しているところであります。来年度は、山陰のデスティネーションキャンペーンということでもありますので、ぜひお互い、これもお客さまの意図によりますけれども、ちょっと長めに滞在しようかなという方は、こちらのほうも含めて検討していただきたいと思っているところでございます。

先ほどお話にありました、香港からの観光客数は大きく伸びているところであります。ドライブルート、あまり地域限定にすると面白くありませんので、我々の岡山県も含めたドライブルートのPRなど、お客さまにとって使いやすい、いろいろな仕組みをつくっていきたいと思っています。

サイクリングも、本当にサイクリングしやすい素敵な景色、場所であります。岡山県は、8つの推奨ルートを設定しているわけでもありますけれども、そういったことについても、これから共有できるのではないかと、また県境を超えたルートについても、設定ができるのではないかと思っているところでございます。

大山の開山1300年祭、これは今ステップアッププログラムをつくって、今年はこれをしていこう、あれをやっていこうということで、本当にいろいろな整備をするいい機会だと思っています。ぜひ、せっかく訪れてくださった方ががっかりされることのないように、協働して、レベルをほぼ合わせて連携していくというのは素晴らしいことなのではないかと思っています。

観光ということについて、私は非常に思い入れが強くあります。実際、岡山県の工業出荷額の半分は、本当に狭い地域である県南の水島から出ているわけでもあります。これはこれで非常に大事ですけれども、どうしても面積にして99.9%のほかの地域は、そこから出る二次的波及効果を期待することになるわけです。観光の場合、本当にいろいろな場所を直接元気にすることができます。また、観光産業に参入するに当たって、初期投資100億円なんていうことにはなりません。県民誰もががかわることができるということで、非常に大事な産業です。鳥取県と一緒にさせていただくことで、県北地域が非常にかかわってくるということがありますので、ぜひいろいろな場面で連携をさせていただきたいと思っております。どうぞよろしく申し上げます。

次の項目は、その一緒にさせていただいている「アンテナショップにおける連携」という

こととさせていただきます。この項目は、その次の項目の「移住・定住の促進」と関係がありますので、一緒に取り上げさせていただきます。

それでは、私のほうから発言させていただきます。

鳥取県と一緒にさせていただいている「とっとり・おかやま新橋館」は、今年9月で3周年を迎えたわけとさせていただきます。大体1年に50万人来場していただいております、そのペースもさることながら、1年目はにぎわったけれども、2年目、3年目は随分数が減ったということではなく、少しずつ増えているというか、高いレベルを維持できていることは、本当にありがたく思っているところでございます。

先日もイベントで平井知事と一緒しました。計測したわけではありませんが、平井知事がいらっしやると、私が単独でやるよりも明らかにマスコミの露出が増えますので、大変ありがたく思っているところでございます。

また、何度もお伝えしましたが、もし我々だけでアンテナショップをしていたら、ほとんどの県は単独でやっていますが、端境期というか、端境期よりもっと広い、自分たちの強みの商品がない時期が3カ月も4カ月も続くということが普通に起きてしまうわけです。特技の違う鳥取県と岡山県が一緒にすることで、補完関係がよく、お客さまからすると、いつ来ても何かしら旬のおいしいものがあるという状態になっていて、お互いあまりバッティングしないという、本当に素晴らしい組み合わせを隣県と組むことができ、幸せだなと思っているところでございます。また、アンテナショップ初のヒット商品、梨と桃をミックスした「ももてなしソフトクリーム」や、「梨とぶどうのパフェ」といったものも出て、非常にうれしく思っています。

お互い頑張っているわけですが、我々から見ると、鳥取県ならよく分かりますけれど、「蟹取（かにとり）県」ですとか、「星取（ほしとり）県」ですとか、貪欲にいろいろなものにチャレンジをされて成果を出されていて、非常に参考になるところとさせていただきます。私どももぜひ頑張りたいと思っています。その一つの例ですが、アンテナショップの機能を生かした調査や試験販売を行う取り組みをしようと、「おかやまマーケティング・ラボ事業」と名前を付けて、これまでよりもさらに高度なアンテナショップの使い方にチャレンジしようとしているところでございます。

続いて、移住の話させていただきます。

ありがたいことに、岡山県は移住先としての人気が高いレベルで続いています。移住者1万人の目標を達成すべく、今、首都圏でナイター相談会を毎月開催したり、住まい、就農など、テーマを絞ったセミナーの開催など、いろいろなことをしているところでございます。2014年度の両県知事会議において、合同でそういった相談会を開催しようということになりまして、何度もそういったセミナーをさせていただきました。今年度も、これから12月と1月に共同で相談会を開催させていただくということで、大変楽しみにしているところであります。首都圏の皆さんは、漠然と田舎暮らしをしたいと思われている方は多いのですが、なかなか具体的な検討に進まない。その漠然とした興味を、ステップを

踏んでいただき、きちんと確かめることで、いかに幸せな移住につなげていただくか。我々自身も頑張りますし、鳥取県ともいろいろ共同、協力しながら、首都圏の皆さんの幸せと、我々の元気が両方達成できるように頑張っていきたいと思います。

【平井知事】ありがとうございます。今、伊原木知事からも非常に力強いお話をいただきまして、いいファクターとして、私どももちゃんと力を発揮できるようにについてまいりたいと思います。

考えてみますと、アンテナショップの新橋館も、伊原木知事のお見立てであの場所に決まりました。私もいくつかの案の中から選んでいたときに、ここが一番いいんじゃないかと申し上げながらも、なかなか職員の賛同を得られたような、得られていないようなところがございましたけれども、「伊原木知事が、ここがいいと言っている」と言ったら、風向きが変わり、あのいい場所を押さえていただいたわけでありまして。以来、いろいろとタレントさんにもご愛用いただき、誰かがこっそり買いに来たりしているという話も聞きますので、いろいろなところで浸透しているんだなと思いました。そんなことで、非常に成功例となりつつあるのではないかなと思います。

ただ、これからあそこの箱のほうが契約更改の時期も迎えます。いいところと悪いところを含めて、いろいろと評価をしながら、私どもとしては、岡山県さんと私どもはちょうど補い合う関係だと思っています。例えば、今日我々はカニの解禁日という、一年で一番大切な日でございます。これから冬場に入っていくわけでありまして、農作物としては少し閑散期になるところが、我々はこれからカニが出てきます。それから、今日はおいしい紫苑というブドウがございましたけれども、こういうブドウと併せて、我々のほうはこの時期ですと、あたご梨とか、輝太郎（柿）であるとか、そうした鳥取県独特のフルーツをこれから供給できるシーズンということでありまして、あまり重なり合いません。買い回りするには非常に楽しいお店になりますし、ここで情報発信することで、厚みのある情報発信ができるのではないかなと思います。ですから、我々としては、この岡山・鳥取両県の共同アンテナショップ、それから移住・定住の相談窓口など、基本的に今後も継続してやっていくことを念頭に置きながら、総括をし、また次年度以降のことを話し合わせていただければありがたいなと思います。

アンテナショップで、いろいろなテスト商品のお話がありました。私どもも、その中で、例えばケチャップであるとか、これは売れるというのが分かってきました。多くの人に手に取っていただき、岡山のおいしいものと併せて、鳥取の「これはいいな」と思ってくださいる物もチャンスが出てきており、これはたぶん逆もまた真なりだと思います。今日ここで、地域おこし協力隊員が作られた「Nagi Siro（なぎしろ）」という、ババロアみたいな感じですかね。大変おいしくて、牛乳がいいからこういうものができるのでしょうか。とにかく理屈なくおいしいわけでありまして。こういうものを店先に並べることで、いい効果が生まれるのではないかと、こんなチャンスを、いろいろな農家が地域に与えることができ

る貴重な場だと思えます。ぜひ、伊原木知事には、これからもご指導いただければありがたいなと思えます。

また、移住・定住につきまして、10月1日、2日は、去年の地震で被災なさいました、真庭と鳥取県倉吉市の両方を回る移住・定住促進ツアーがありました。私どもも幸い、これで移住検討に入ったような方々もいらっしやいまして、こうして同じ山を眺めながら生きている人たちが、県北、それから私どもの県南といいですか、山の向こうは、少なくとも共同してコミュニティーが組めますし、そこを両方見てもらうことで、例えば病院に行くならここだな、買い物ならここだな、ちょっと遊びに行くならここだなというのが両県にまたがっている。それを実感していただくのも、大変いいことではないかと思えます。こういうことも、ぜひ新年度に向けて協議させていただければありがたいと思えます。

また、これは先般知事には問題提起をさせていただいたわけでありまして、これからまた検討の出発点にもなればと思えますが、私どもは県立のハローワークを始めまして、東京でも開設をいたしました。これは、移住・定住の一つのツールでございます。つまり、データベースを持ち込みまして、バックの国のほうのハローワークに行かなくても、鳥取県のハローワークですから、鳥取県の求人情報の検索を自分で端末でできたりするわけでございます。ただ、今は東京事務所のほうでやっています。たぶん、伊原木知事のところも、東京事務所のほうに移住・定住の相談や職業あっせんの仕組みがあると思えますが、場所的には土日閉まってしまいます。それから、こういうおいしいものがあるよとか、観光情報はこんなものがあるよというのを見られるところで、職業についても知ることができれば、今後、移住・定住にも効果が出てくるのではないかと思えます。ですから、今すぐ急にということではないのかもしれませんが、そういう検討をまた岡山県さんのほうでもしていただければ、例えばこうした職業相談なども、中長期的に一緒にやっていくということで、ハローワークの共同開設ということもアイデアとしてはあるかなと。今日は別に、この点を決めてくれということではございませんので、また中長期の課題として考えていただければと思えます。

【伊原木知事】ありがとうございます。このアンテナショップの場所を決めるときのことを思い返すと、あそこの場所へたどり着くまでに何軒断ったのでしょうか。これも駄目、あれも駄目と言って、5軒とか10軒近かったような気がします。そもそも最初は、銀座2丁目の、すごく狭い2階の物件とか、なかなか中が見えづらい場所とか、そんな話ばかり持ってこられました。そもそも、宝石を売るならそこかもしれないけれども、我々が売りたいのは、大抵農作物とか、そんなに高い物ではないので、どっちかというとな銀座みたいな人通りの少ない、でも高級な雰囲気のところよりは、もう少しリラックスできるようなところがいいよねという話をしだしてから、ああいう案件が来ました。これこそというもので、本当によかったと思っています。私は、あまり法律にも詳しくないし、なかなか自分の強みを挙げるのも躊躇するわけですが、マーケティングとか販売は、数少ない

私の専門といたしますか。そこで非常にうまく行って、本当によかったと思います。せっかくああいうふううまくいっている、皆さん方が日々訪れてくださる、我々にとって非常に貴重な場所ですので、それをどういうふう、さらにうまく生かしていくかということについては、ぜひいろいろ前向きに検討していきたいと思っています。

最初、私があのお物件を見たときに、「素晴らしいけど、これは一県ではとても使い切れな。これはどこかと組まなきゃいけない」と考えました。まさか、面積が足りなくなるようなことは、10年後にはあるかもしれないけど、たった3年でいろんな話が出てくるというのは、非常にうれしい悲鳴でございまして、いろんな考え方、要望、計画を整理しながら、すぐにすぐということではないかもしれませんが、ぜひ相談しながら考えていきたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

【平井知事】次に、防災・減災対策につきましては、冒頭に申し上げましたけれども、本当に岡山県さん、知事のご決断に感謝を申し上げたいと思います。あれから1年たちまして、10月21日の発災から、鳥取県内の被災地でもブルーシートは相当取れてきました。まだお店が全部開いたわけではございませんけれども、元気に仕事を始められたお店もございまして。そういう中で、ちょうど今「王秋（おうしゅう）」という梨の収穫の季節を迎えております。去年の今ごろ、王秋を買っていただき、給食で使っていたことで、落ちて収入にならない梨が収入源になりました。額の多い、少ないではなくて、農家がみんな営農意欲を失わずに続けることができたというのも、素晴らしい隣人がいらっしやっただからでありまして、本当に感謝を申し上げたいと思います。

去年、大雪のことを話し合ったときも、機材の共同化といたしますか、共同使用について話してまいりました除雪でございますが、ぜひ次期のシーズンに向けましても両県で協働しながら、例えば迂回路の設定や案内、それから万が一の降雪のときの除雪、そうしたことでの協力をさせていただけるとありがたいと思います。

今回、台風でこの辺りも被害がございましたけれども、岡山県さんとは人材の共有化という意味で、防災担当職員の交流も進んでまいりました。ですから、お互いの手の内も十分、分かるようになってきていますので、今後こういう場合にはこういうふうにするという、さまざまな想定を組んで対応していければいいのではないかなと思います。

ちょうど厄介な課題として、鳥インフルエンザの季節になってまいりまして、松江の問題も出てまいります。今回は、両県には関係ないということになるかもしれませんが、ただ以前、広島・岡山両県境のところであったケースのようなこともございますので、これから冬に向けて、こういう鳥インフルエンザ等々の家畜被害対策、これにつきましてもしも一度できることを共有していくことが必要なのではないかと考えておりますので、シーズンが始まりましたことで、改めて現場での話し合いをさせていただければありがたいと思います。

また、私どものほうで今度、医療用のヘリコプター、ドクターヘリを導入します。この

辺りぐらいが限界点なんですけど、真庭であるとか、新見であるとか、基地に当たります米子からは十分な圏内に入ってまいります。これは、岡山のほうの医療用のドクターヘリと重ね合わせながら使っていくことで、より県北地域の方々にもご活用いただいてもいいのではないかと思います。今、鳥取県では手続きを急いでいますが、年度内には間違いなく運行を開始できると思います。今、消防局さんと、具体的に患者の搬送の在り方について話し合いを始めたところでございます、ぜひまた県のほうでご指導をいただくと非常にありがたいと思います。

【伊原木知事】 どうもありがとうございます。本当に災害ということと言いますと、岡山県は比較的、台風ですとか地震、あまりこれまで大きなことにはなっていないという県ではありますけれども、そもそも日本全体が災害の展示会のような国でありますので、我々自身も常に備えを怠らないようにしているところであります。何かあったときに、困ったときはお互いさまというのは、この災害の多い国に住む我々にとっては、当たり前にあるべきことでありまして、県境がいろいろな共助もしくは公助の仕組みの妨げになってはいけないと思っています。

岡山県は、熊本地震などの教訓を踏まえて、何か大変なことが起きたときに、他の自治体からの応援を円滑に受け入れて効果的に活用する広域受援計画の策定、それから支援物資物流対策等に今、取り組んでいるところであります。実際、備えができていっていると思っていながら、何かあったときに、例えば情報を整理するためのエクセルファイルのフォーマットが違う。名前が先に来ているとか、年齢が何番目に来ているとか、ちょっとした違いですぐに一緒にできないとか、そこを変えるだけでも時間がかかったり、ミスが出た集計表になったりします。東日本のときにも、電源があって電源車もあるのに、つなぐところのフォーマットが違ってつなぐことができなかつたというのは、どれだけ残念だったか。そこまでいかないにしても、「ありますよ」「あ、そうですか。よかった」で、いざ来てみると、A4サイズとレターサイズみたいな、ほんのちょっとした違いでうまくいかなかったということになると大変ですので、そういった細かいところまで、意味のある備えというものを考えているところでございます。

また、この中国地方知事会の広域防災部会を中心に、四国各県、それからご案内をいただきました関西の広域連合と連携することで、我々が思っていない広い被害が起きたときでも、お互いの受援がスムーズに行くように。当然、そういったことがなくてもできて当たり前なんですけど、あらかじめできることについては準備に取り組んでいるところでございます。

我々が被災したら広島県が助けに来てくれるということですし、我々は鳥取県に何かあったら出掛けていくという、この中国地方内のお互いの取り決めということで、防災部門での人事を、先に顔が見える関係にしておいたほうがいいのではないかとということで、実践してから4年間たちました。4年たつと、随分知り合いが増えているようでございます。

やはり、分からない人に電話をして、「私が担当ですから、よろしく」と言うのと、「〇〇さんから聞いています。こうだったそうですね」と言うのでは、いざ必要になったときには随分違うのかなと思っています。ぜひ、こういった交流を続けていき、いざという時は来てほしくないですけども、いざということがもしあったときでも、ベストの仕事ができるようにしていきたいと思います。どうぞよろしくをお願いします。

では、災害のときにはしっかり頑張るということを確認し、次は人口減少問題です。それぞれの国にとって大きな問題であります。その人口問題に一番効いてくる少子化対策推進ということで、まず私のほうから述べさせていただきます。

とにかく、2の出生率が欲しいところでありましてけれども、実際そこからはるかに低い現状が続いているわけがございます。このままでは、本当に地域を維持できないということで、今、頑張っているところでもあります。本県では昨年度、出生率の地域格差がどういふ要因から来ているのかという分析をいたしました。一言で結論を言いますと、20歳代から30歳代前半の有配偶率が低い、つまり結婚しないということです。また、ほかの地域と比べると、30歳代の有配偶出生率、せっかく結婚されてもお子さんにつながっていないということが明らかになりました。それぞれ27市町村ごとの特徴も見えてきたところでもあります。

今回、奈義町でこの会議を開いた理由の一つでもあるのですが、奈義町の出生率は、2014年に日本全国トップクラスとなる2.81を記録して話題になったところでもあります。とにかく、我々はこのまま放っておかないぞということで、ありとあらゆる施策を展開された結果なのかなと思っています。

第1子の壁、第2子の壁、第3子の壁とありますが、日本では結婚しないとなかなか子どもを生まませんから、第1子については結婚だろうと思います。第2子というのは、配偶者、ご主人の家事の協力があるかないで、全然2番目の子どもが生まれる率が違うそうです。3番目になると、経済的なことで躊躇する方が非常に多いということで、頑張っています。とにかく、当たり前ですけど、第1子の壁を超えないことには第2子、第3子までたどり着きませんので、岡山県はとにかく結婚したい人にはご縁を提供しようということで、「おかやま縁むすびネット」という名前でサポートをしているところがございます。幸い、大変評判がいいものですから、今、登録をする、もしくはお見合いをするブースの拡張、もしくは岡山市だけでは駄目だろう。倉敷や津山、いろいろなところに出張所をつくってほしいという要望が強く来ているところでもあります。

とにかく、この少子化の問題は、たぶん日本全国ほぼ共通の問題で、特に岡山県の県北の皆さんにとって、地域の維持可能性ということも絡んで、切実に思われている問題ですので、鳥取県の皆さんとも一緒に協力できるのではないかと考えているところがございます。また何か、こういうやり方がうまくいっているということがありましたら、ぜひ教えていただきたいと思います。どうぞよろしくをお願いします。

【平井知事】ありがとうございました。いろいろと課題もある中でございます。ぜひ、こうしたノウハウを共有したり、場合によっては、婚活のイベントや情報の一部共有化等も、できるのであれば検討してみてもいいと思います。

先ほどの災害の話もそうですが、お互いに物資の支援をしようとした場合に、どういうモデルで標準化していくか。標準規格といいますか、支援の在り方というあたりは、ぜひ中国各県、あるいは四国も含めてかもしれませんが、まずは共有化することができればと思います。これは、岡山県さんが割と中心になって考えてくださっていますので、私どもも今回の災害の経験もあり、ぜひできるだけ早い時期に標準化をして、共同の物資支援体制を、単県ではなく、中国五県ないし四国も連携させながらできればありがたいと思っています。ご指導いただければと思います。

少子化につきましては、今お話がございました 2.81 という数字は驚異的だと思います。先ほど、笠木町長は教育のご出身というお話もございましたが、そんな意味で子どもたちと向き合いながら、あるいは家族と向き合いながら、ここまで地盤をつくってくださったことに敬意を表させていただきたいと思います。

鳥取県も少なからず上がってきた口でありまして、今 1.60 まで上がってきたのですが、まだまだ課題と向き合いながら動いているのが実情でございます。幸い、20代、30代の女性の流出の数自体は、差引勘定ですけれども、今、減り始めています。ただ、それでもまだ止まっているわけではありません。この層が増えないことには、本当の出生数の増加にはたぶんつながらないわけです。これは、別に女性だけの問題ではなく、要は子育て世代というものをつくる。今おっしゃるような、結婚をして、子どもを持つという方々を応援する仕組みが大切なのだらうと思います。

本県でも、「えんトリー」という制度をスタートさせました。結構、加入者もいまして、参加者も多く、成立カップル数や結婚ゴールインの数も実績が着々と積み上がっています。現在、鳥取・米子につくっていますが、中部の倉吉でも今、支所といいますか窓口をつくらうと、新年度に向けて検討をしているところでございます。こういうネットワークは、特に県北地域はそうだと思いますけれども、割とオーバーラップしますので、場合によってはある程度共有化を図っていけるところもあるかなと思います。少なくとも、婚活イベントの情報などは、共同で進めていけるのではないかと思いますので、またご検討をいただければありがたいと思います。

【伊原木知事】奈義町主催のイベントが、11月25日土曜日にあります。これはまさに、鳥取に行ってデートをするということで、砂の美術館、鳥取砂丘で愛が生まれるのではないかと感じています。

先ほどのお話をお伺いして、思い出したことがあります。私は、もともと物流業者だったのですが、日本ではパレットの規格を1.1メートル掛ける1.1メートルに合わせようと言いついてから、10年なんていうものではなく、随分かかりました。それぞれのグループが

別の大きさのものを使っていたので、入れ替えが大変でした。今はもう、ほぼそろっています。ちょっとした規格の違いでひどい目に遭ったりもしますので、やはり最初から規格を合わせていろいろな準備をするのは大事だなと思います。

次も大事なことですが、「高速道路ネットワークの整備・充実」と「県境における地域交通」は、非常に関連をしていますので、2つ併せて平井知事のほうからお願いします。

【平井知事】確かに、規格というのは難しく、例えば屋根を覆うブルーシートも、小さいものは結構あります。私どもは、西部地震のときに経験したのですが、ブルーシートを探せと言うものですから、イオンの倉庫の中にいっぱいあったので、それを使おうとしたのですが、小さくてうまく張れません。我々は、いろんな支援物資を頂いたのですが、実は使いやすいもの、あるいは丈夫なもの、いろいろなタイプがあります。ですから、ある程度、過去の経験に照らして、規格を合わせながら準備をして備蓄していったほうが、たぶん得策なのだろうと思います。そんな意味で、標準化という伊原木知事のアイデアは、非常に的を射ていると思いますので、ぜひ、いろんな材料を出し合ってつくってほしいと思います。

高速道路も、おかげさまで鳥取県内は、このたび12月17日に山陰道の鳥取西道路が一部開通することになりました。また、美作岡山道路も今、着々と、特に新年度になりますと、岡山県内もかなりつながることになります。こうやって大動脈ができてきますと、たぶん車や人の流れが格段に向上すると思います。今日、この奈義に来るのに、私は1時間かからないくらいで来られます。たぶん、岡山県庁よりも鳥取県庁のほうが近いと思います。ですから、もしうちがお金持ちだったら、奈義町は鳥取に来るかもしれませんが、鳥取に嫁入りしてもお金がないものですから、岡山のほうにおられるのかなと思います。

でもそれも、美作から岡山に道路がつながると、普通の距離関係に変わってくるのだと思います。それは、単に岡山県内のことだけでなく、私どもが例えば智頭の辺りからずっと回って来るときに、空港やあるいは岡山の市街地、また大変なのは、鳥取県の東部は、岡山の南側のほうの病院にお世話になっている人が意外におられます。そういうところの行き来などに効果が出てくるということで、道路ネットワークは1県だけの問題ではないということです。そして、米子道、岡山道の4車線化も喫緊の課題でございますし、北条湯原道路もしっかりでございます。国への陳情要望活動もでございますけれども、両県で力を合わせて、こうした道路ネットワークができるように、やっていければと思います。

こういうネットワークが高速で出来上がってきますと、副次効果が生まれてくるわけでありまして、サイクリングのルート設定もまた地図が変わってき得ると思います。先般、韓国でPR活動されたときに、伊原木知事が自ら自転車に乗られる勇姿が大写しされました。「これ岡山ですか？」と韓国の知事さん方もおっしゃっておられました。これは、日本以外で非常に今ブームを呼んでいて、台湾やアジアのお客さま、あと欧米もそうであります。そういうときに、高速道路と平行して走っている一般道などは、結構使い道のあるサ

イクリング道路になる可能性があります。せっかくなので、この中国地方をぐるぐる回っていただいたり、山陰と山陽を結ぶルートを走っていただく。また、それぞれの県内に、今サイクリングルートが出てきますので、それにちょっとしたつなぎ目をつけることは可能ではないかと思えます。

例えば、この辺りで言えば、ここは53号が走っていますが、鳥取道ができた関係で、交通量がかなり減っているわけです。こうしたところを、例えばサイクリングルートとして設定していくアイデアも、今後あり得るわけでございます。高速道路のネットワークづくりと併せて、安全に楽しめるようなサイクリングルートの設定、そこにペンディングをしまして、ルートとして両県で公認をして認めていく、そんなネットワークもまた同時につくっていければよいのではないかなと思えます。

地域交通も、コミュニティー活動として今いろいろモデルが出来上がってきております。私どもも、NPOを活用しながら、市町村の足役となって地域交通もできてきています。場合によっては、医療圏の問題もあって、両県にまたがって交通の在り方を検討してみるということもあり得るようになっていきます。先ほどのドクターヘリもそうでありますが、日常お医者さんに通うルートとして、今例えば、倉吉の病院で真庭のほうにお迎えに行っているところもあります。そういうことをにらみながら、需要のあるところに地域交通を補充することがよいのではないかと思えます。

両県にまたがって行き来をするものといえば、シカやイノシシ、クマもいるのですが、これもぜひ新年度に向けて、例えば狩りのシーズンです。例えば、もう過ぎましたけれども、10月はシカの狩りのシーズンです。そういうときに、示し合わせてやっていけるような連携もできればと思っています。

【伊原木知事】大事な道路の問題に、また大事な有害鳥獣の問題も絡めてお話をいただきました。

まず、高速道路ということで申し上げますと、暫定2車線の高速道路は、普段は取りあえず動いているわけですがけれども、いったん何か事故があったり、また前回お邪魔させていただいたときのような大雪のときに、片側1車線なのか2車線なのかということで全然違ってきます。私は、言われるまで気付いていなかったのですが、片側2車線あれば、1車線を除雪して、もう1車線を雪置き場として使えるわけですが、当たり前ですが、1車線だとそういった工夫はほぼ不可能ということでもあります。そもそも、日本以外のほぼすべての先進国では、片側1車線の道路は、いくらきれいに作っても高速道路とは認められていないということでありまして、ぜひきちんと最低片側2車線ある高速道路にしていかなければいけないなと思っています。

そういうことで言えば、岡山道の付加車線設置が決まったというのは、我々も非常にありがたいことでもあります。その工事がきちんと進むように、建設残土を捨てる場所の確保など、我々もネクスコ西日本さんを後押ししております。もしくは、「岡山米子線20th（は

たち) メモリアル事業」で、もっとしっかり使おうねという事業も着々と進めているわけであります。国や関係機関に、「片側2車線、計4車線が基本だと思いますよ。我々は、諦めたわけではないんですよ」ということを継続して訴え掛けるに当たり、鳥取県とも一緒にこの声を伝えていきたいと思っています。よろしくをお願いします。

先ほど、県境を越えての救急搬送、もしくは患者の搬送ということがございました。とにかく、患者さんの重症度、病院の配置を考えると、この患者さんにとっては、県内で処理するよりも、こちらに来てもらったほうがよほど合理的だと。先ほども、ここに来るのは私よりも平井知事のほうが早かったということがあるわけでありまして、合理的に考えればこうだということが極力実現できるように、いろいろな仕組みだとか、インフラの整備を進めていきたいと思っています。そういったことが、救命率の向上にもつながってくるのではないかと考えているところであります。

また、ものすごく雪が降ったときにどのように対応するのか。たまたまそのときに知事同士で会っていれば、「じゃあこうしましょうか」ということで早いのですが、そういうのは1年のうちにそうそうあるわけではありませんから、そういうときにどうするのかということも、あらかじめざっくりと決めておけばいいのかなとも思ったりします。

また、地域交通のお話ですけれども、岡山県にとっても本当に悩ましい問題であります。人口がそれぞれの地域で減っていく。そうすると、公共交通の採算性がどんどん悪くなって、便が少なくなると不便なので、それまで使っていた人まで、「そうしたら、もう車にしようか」ということで、過速度的に採算が悪くなっているということがあります。それをすべて公共でやるというのは、正直現実的ではない中で、タクシーに近いやり方にするのか、バスにちょっと工夫をしたようなやり方にするのか、どういうやり方にするのか、地域の特性に合わせて工夫をしていかなければいけません。市町村がしっかり考え、また地域、地域の住民の皆さんにも、お話をお伺いしながらやっていかなければいけないことだと思っています。我々が主体になるというのは、私は現実的ではないと思っていますけれども、そういったことの話し合いについて、相談を受けて、いい助言や支援ができる存在でありたいと思っています。ただ、共通の悩み、もしくは意外とこれがうまくいった、もしくは共同でやることでうまくいくといったことがありましたら、ぜひ考えていきたいと思っています。

【平井知事】今、伊原木知事がおっしゃったように、いろいろといい解決策は、たぶんこの地域のやり方としてあり得ると思います。美作などでも、コミュニティナースというのですか、地域交通と看護を組み合わせたモデル事業がなされていたり、私どものほうでも、地域を結ぶ道の駅、日南の辺りをキーステーションにしまして、そこでお互いの輸送というものを付け加えて、一つのまとまった地域、小さな拠点を生かしてやっていこうとか、いろいろなケースがあるだろうと思います。そういういいノウハウを共有化できれば、本当にありがたいと思います。

また、少し先の課題として考えていただいているとは思いますが、北陸新幹線、九州長崎ルートや北海道新幹線が動きました。ほぼ何年かで終わろうかという、先が見えてきているわけでありまして、特にJ R西日本で言えば、北陸新幹線が決着をすれば、次は何をするかという時代に入っていきます。そういう中、早晚、伯備線の車両更新の時期を迎えるなど、伯備線ルートの課題。それからまた、因美線あるいは智頭急行、伊原木知事も株主になっておられますが、そういうところを活用して高速交通というものを確保していく。これは、新幹線計画がもともとあった地域でございまして、それとの関係もありますが、少なくとも高速交通化を目指した調査研究を、国も入り、J Rも入った中で進めていく、そういう時代の転換点の中で、ボールを前に投げていく段階に入ってきているかなと思っております。これは、今日この場で何か決まるということではないとは思いますが、ただ考えるべきタイミングに差し掛かっているわけでありまして。後々、将来のことを考えれば、私たちの時代にその議論を開いておく必要があるのではないかと思いますので、今後またご検討いただければと思います。

【伊原木知事】ついお隣の広島で、三江線の問題、もしくはJ R北海道さんは、「本音で言えば、我々自身、路線の半分ぐらいしか維持できません。あとは地域の皆さんしっかり考えてください」ということを発表されたり、我々が当たり前前に享受しているインフラも、当たり前ではなくなってくる可能性がある中で、どういうふうに考えていくのか、しっかり我々が、顕在化する前に議論をしなくてははいけません。10年、20年先のこと、心配なことについても、夢のあることについても、考える必要があるなと思っております。ありがとうございました。

用意された議題につきましては、これで終わったわけですが、「その他（PR事項）」ということで、私のほうから1つお話をさせていただきます。

この週末、第3回の「おかやまマラソン2017」を開催いたします。私の1期目、「お前は何か4年間でやったのか」と言われた場合、アンテナショップを共同で開催させていただいたということと、長年議論はされていたけれども実現しなかったおかやまマラソンが、第1回開催されて、非常にうまくいったということなのかなと思っております。これは、岡山をアピールするということでも非常に意義深いわけですし、走る習慣、歩いたり動いたりする習慣を県民の皆さんに浸透させて、大げさに言えば健康寿命の延伸を図る、本当にいろいろな意味で深いことだなと思っております。実は、1万6,000人のランナーのうち200人は鳥取県からのご参加ということで、あと1週間を切りましたけれども、楽しみにしているところでございます。どうぞよろしく申し上げます。

【平井知事】また伊原木知事が走られるのかもしれませんが、沿道に大変な応援団が詰め掛けるのではないかと思います。おかやまマラソンの大成功をお祈り申し上げたいと思います。鳥取県民もかなり参加しますので、ぜひ受け入れていただければと思います。

「すなば珈琲」のコーヒーカップは、飲んだ後にラクダの絵が出てくるのですが、カップの底にラクダの絵を描いたほうが面白いのではないかと提案したのは有森裕子さんでございます。有森裕子さんに、「モーニングセットを食べに行くなら、この時間ここに」と教えたのは私でございます。そんなわけで、少なからぬご縁もでございます有森さんに、また今年も応援をさせていただいている素晴らしい大会だと思います。ぜひ、海外も含めて、多くのお客さままでにぎわうことをお祈り申し上げたいと思います。

私ども鳥取県も、今カニ取りの季節でございまして、本当は今日ここで、伊原木知事にもお見せしてご試食いただくべきなのですが、まだ漁が始まったばかりで、水揚げがございません。ただ、カニは出てきますので、これからのシーズン、蟹取県キャンペーンもやっておりますので、また岡山の皆さまにもお越しただければありがたいなと思います。

また来年、8月10日、11日に全国「山の日」大会が開催されることになりました。第1回は、長野県の阿部知事のもと、第2回が栃木的那須で行われまして、第3回がこのたび鳥取県の大山に決まりました。当然ながら、大山は蒜山と一体の山でありますので、蒜山観光も含めて全国の皆さまにお越しただければと思っています。大山国立公園一帯、蒜山なども含めたところを周遊していただけるように、我々も呼び掛けていきたいと思えます。全国のシンボルのような大会でございますので、伊原木知事はじめ皆さまのほうでもPRにご協力いただければと思います。よろしくお願ひ申し上げます。

【伊原木知事】どうもありがとうございました。予定されていたお話は終了いたしました。

【村木局長】ありがとうございました。以上をもちまして、岡山・鳥取両県知事会議を閉会させていただきます。

引き続きまして、記者会見を行わせていただきたいと思います。ご質問される方は、恐れ入りますが、会社名とお名前をお願いいたします。どなたからでも結構でございますので、どうぞ。

【山陽新聞社 松島】山陽新聞社の松島と申します。お世話になります。

両知事のほうから、サイクリングの推奨ルートについて、県境をまたぐルートを検討したいというお話が出たと思います。現段階の思いで構わないので、どういったルートがあるか、ぜひ聞かせていただきたいと思います。

【伊原木知事】まだ具体的にどうこうということではありませんけれども、今、少なくとも中国地方で、中四国サミットでもそうでしたけれども、広域で自転車ルートを設定しようという話になっているところです。多くの県が県内のルートを設定済み、もしくは今から設定するところなのですが、当然、広域でというときには県境を越えるルートになります。これだけ仲良くさせていただいていますし、国立公園も大山と蒜山をまたいであるわ

けですから、そういった両方のいいところをつなげるようなルートであればいいなど。また、そのルートがあまりにも嫌がらせのような、人が登れないようなルートではなく、安全でいいルートを見つけないかと思っています。今日も奈義町にお越しいただき、皆さま方にとってはちょっと長旅でご負担をおかけしたわけですが、こういった機会にお越しいただくと、「そうそうめったに来るところじゃないけど、来てみるといいところだな」ということは実感していただけたと思います。ルート設定をうまくすることで、「単にルートをたどってきたのだけど、来てみたら本当にいいところだ」と思っていただけるようなルートを工夫したいと思っています。

【平井知事】今、伊原木知事がおっしゃったことに尽きるわけではございますけれども、実は蒜山側で岡山県さんは周遊ルートを組んでおられます。私どもも、ツールド大山という、ちょっと厳しいコースなのですが、自転車レースを行っているコースも含めまして、鳥取側のルートを今、着々と延ばしつつございます。広島をまたぎまして、愛媛から中国地方に入り、そして松江を通りまして、米子経由で大山に行くというところまで、今、一つルートが伸びたものがございます。こういうものを今、例えばジャイアントさんだとか、そうしたところにも売り込みを図っているところでございます。これを、もしうまいこと蒜山側のルートとつなぐことができれば、山岳コースの中で両県楽しめるというものがあるかなと、従来から思っています。ただ、これまで十分な設定には至っていないところではあります。

最近、両県間で話し合いを重ねる中で、ここ 53 号のルートも可能性があるルートではないかと注目をし始めているところです。鳥取側のルートは、山陰道が今、着々と整備が進んでいまして、これが完成するころには、今の 9 号線はサブのルートになります。自転車でツーリングすると、景色もいいし見てもらえる。それから、こちらの山のほうに入ってきて、岡山側へ入っていくルートも考えられるのではないかと。いろいろなルートを考えたときに、373 号線経由ですと、どうしても志戸坂峠のところは交通量的にも鳥取道と重なりますので、どうなのかなという部分があったりしますが、53 号なども活用すれば、こちら側に抜けてくるルート設定も可能なのかもしれない。もちろん、そのほかにも、例えば人形峠であるとか、両県をまたいで割と景観のいいところを走るルートはありますが、安全のこととか、ルート設定の全体のテーマ性なり魅力ということも考える必要があるかなと思っています。

実は今、去年の会議を経て、両県で具体的なルート設定を検討し始めているところがございます。いずれ、両県の気持ちを一つにまとめたところで、多くの皆さまのご意見を仰ぎたいと思っています。

【日本海新聞 北尾】日本海新聞の北尾と申します。

今日、観光面で、今も両県で増えている共同プロモーションを押ししたいという話がござ

いました。具体的に、何か考えていらっしゃるがありましたら。

もう一点、鳥取と岡山の共同のアンテナショップのことです。契約更新時期を迎えるということですが、これは両県知事ともに、議会の承認も必要ですが、ご自身としては今後も継続したいということでのよろしいかというご確認。その場合、何年ぐらいを当面のめどとしてされたいか。

それから、平井知事にお聞きしたいのですが、県立のハローワークの共同運営というご提案もありました。今日、結論をとというわけではないですが、これは岡山側の了解が得られればアンテナショップに移したい、もしくはそれがなくても、鳥取県単独でもアンテナショップのほうに移すというご意向があるということでしょうか。

【平井知事】実は今年も、伊原木知事、湯崎知事とご一緒だったと思いますが、香港のほうで中国五県の共同プロモーションをされました。私は、香港航空のチケットプレゼントも含めて、香港航空側とも交渉した上で、9月に香港で両県のキャンペーンをさせていただきました。台湾ですとか香港は、両県を周遊するコースになり始めております。もちろん、岡山県さんの場合、十字路になっていますから、四国に渡られるお客さま、それから東西、新幹線のお客さまもいらっしゃるのですが、降りた後でこちらから回られるときに、一つのテーマ性を持ってご紹介できるルートも考えられるのではないかと思います。そんな意味で、新年度に向けて、また岡山県さんともご協議申し上げて、香港や台湾でいくつか共同プロモーションの機会も考えております。

また、アンテナショップの活用についてですけれども、要は賃貸借契約で場所が決まっているので、いずれにせよそういう節目が早晚来ることになってきます。そういう中で、どうしていくのか、これは両県の共同事業でありますので、これから濃密な協議をすることになります。もちろん、岡山・鳥取の県議会さんをはじめ、いろいろな周囲の方々の意見を集約しながら進めていく動きがあります。現段階で方向が決まったわけではないと思います。ただ、私としては、伊原木知事も先ほど強調されていましたが、今、非常にいいかたちで進んでいるという同じ認識を持っていて、可能であればこれを継続していく。何年というところまで踏み込めるほど、今日は協議が整っていませんけれども、継続していくことを念頭に、また協議を進めさせていただきたいと思っております。

それから、ハローワークについてですけれども、今日は問題提起をさせていただきました。移住対策を考える上で、就業先というのは切っても切れない課題でありますので、そうした移住相談に訪れる方の利便性だとか、周りの雰囲気、つまり観光や食の魅力なども併せて感じられるかどうかということからすると、アンテナショップと一体化させるようなかたちでハローワークをつくる手もあるのかなと思っております。

ただ、スペースの問題等々、クリアしなければならない課題があります。当然ながら、両県共同のアンテナショップスペースでありますので、鳥取県単独でハローワークを持ち込むことは、パートナーシップとしていかがかなと思いますので、単独で私どもだけのス

ターゲットというのは、どちらかと言うと消極に考えております。

【伊原木知事】まず、アンテナショップのほうですけれども、そもそも「移住にもすごく役立っていますよね」「ここからヒット商品も出ているので、どのようにもっと使っていきましょうか。マーケティングにも活用できますよね」とか、移住に関連して、仕事も見つけなければいけないから、「ハローワークも入れるというアイデアはどうですか」という提案を受けているぐらいですので、両県ともに今うまくいっているものをさらにうまく使えないかという、前向きな発想が出てきております。少なくとも私の中では、どこかで区切りが来たからやめてしまおうということは1ミリも考えておりません。当然、最終的には議会や関係者の皆さんと相談をしながら決めるわけですけれども、「そろそろやめようか」というような話は、私は一切聞いておりませんし、私自身も思っておりません。本当にいいパートナーと一緒にできたなど、節目、節目に思っているところでございます。

ハローワークのことについても、とにかく今、これもやりたい、あれもやりたいという状態ですので、どういうふうにして収めるか考えることになると思います。

観光の共同プロモーションですけれども、例えば大阪から呼んでこようということであれば、近くから来る人は、意外と一点にポッと来て帰る人も多いので、あまり欲張ってもいけないのですけれども、遠くから来る方であればあるほど、広域を周遊される人が増えてきます。例えば、香港ですとか、台湾ですとか、もしくはタイといったところにプロモーションをかけるときには、私自身も広域でやるように考えています。それが、瀬戸内であったり、中国地方であったり、もしくは鳥取県さんとであったり、それぞれ違うわけですけれども、例えば今年の11月にも、鳥取県と岡山県のドライブツアーの定着事業ということで、香港の個人旅行客を誘致しようというPR事業をやることになっているぐらいであります。また、タイについても、鳥取と岡山で連携して商品化を促進しようと考えているところでございます。例えば今、大型客船で来られる方が増えているわけです。残念ながら、岡山県は思っているほど増えていませんが、鳥取県は非常に誘致が成功しています。その方に、ちょっと南に来ていただいて、モモ狩りやブドウ狩りをしていただくツアーが非常に好評だったというお話も伺っております。それぞれの強みを組み合わせてご満足いただくことを、これまでもやってきましたし、これからもいろいろ考えられるのではないかと考えています。

【村木局長】ちょっと時間も押していますので、最後の質問ということで。

【時事通信 川村】時事通信の川村です。よろしく申し上げます。

伊原木知事にお伺いするんですけれども、平井知事のお話の中で、ドクターヘリを今後導入されるというお話がありました。県北の地域では、重なっている部分があるので連携ができるのではというお話だったのですが、あらためてその点についてご意見を願ひし

ます。

【伊原木知事】本当にこれはありがたいことでありまして、ヘリというのは、頻度というか、回数からすると、基本は救急車なんですけれども、ヘリ独特の強みがあります。病院の位置ということもありますし、今、倉敷の川崎病院を拠点にうたっているわけですが、鳥取県さんが運用を開始されるということになりますと、特にこの辺り、県北の中でも上のほうになると、鳥取県さんをお願いをしたほうが早く病院に行くことができるという地域が出てくる。そういう方々については、大きな福音であろうと思っております。これは本当に、大変なときはお互いさまということで、助けていただく場面が出てくるのではないかと期待をいたしております。どうぞよろしく申し上げます。

【村木局長】それでは、以上をもちまして記者会見を終了とさせていただきます。本日はありがとうございました。